



〈連載(326)〉

## 35年ぶりの地中海クルーズ (その2) クルーズ



大阪経済法科大学・客員教授  
池田 良穂

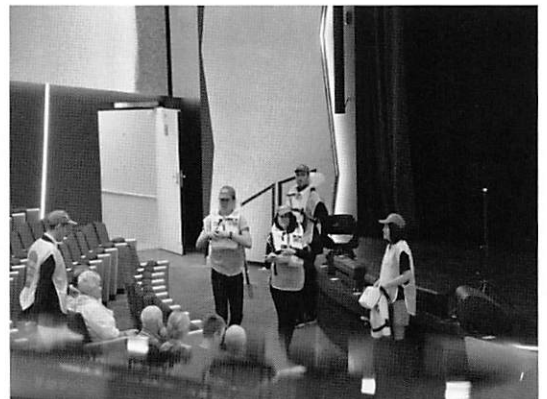
前号に続いてMSCメラビリアの1週間地中海クルーズについてご紹介したい。

朝に入港して、12時過ぎからジェノバからの乗客の乗船が始まった。キャビンは左舷のベランダ付きの部屋を指定していた。今回のクルーズではほぼ毎朝港に入り、夕刻に出港するスケジュールなので、出入港時に反航する船の写真を船室から撮るためだ。船内で昼食をとった後、船内を散策して、1週間のクルーズをどのように楽しむかを頭の中で設計する。

最近、クルーズでのスパにはまっており、スパの施設を見学してから、1週間のスパ・サウナの利用を申し込んだ。部屋に戻るとスーツケースが届いていたので、中のものをすべて出して整理すると、1週間の船内生活がスムーズにできる。

船内新聞で、まず一番大事な避難訓練の時間をチェックする。出港直前の16時45分からで、最近の大型船の場合と同様に、ライフジャケットは持参せずにそれぞれの緊急時集合場所に行くことになっていた。筆者らの集合場所はメインシアターで、船員によるライフジャケット着用のデモン

トレーションがあり、スピーカーから船長の訓話が流れて15分ほどで終了した。参加チェックはすべて船員の手持ちの電子機器で行われていた。不参加者には、後で部屋に通知が来るシステムだ。コスタ・コンコルディアの事故以降、避難訓練は出港前に実施することとなり、参加チェックも厳しくなっている。



避難訓練で乗客にライフジャケット装着のデモン  
ストレーションをする船員たち

メインレストランでの夕食は3回制で、ファーストシーティングが17時半から、セカンドシーティングは19時半から、そしてサードシーティングは21時半からだった。

南ヨーロッパでの夕食の時間は20時過ぎからが一般的なので、セカンドとサードシーティングの希望者が多く、ファーストシーティングしかとれなかった。

17時半にレストランが開き、席についてメニューをもらって注文をし、前菜がでて、ワインを一口飲んだ頃に船の出港となった。担当ウェイターにことわって中座し、プロムナードデッキに出て、しばしシップウォッチング。

港口の近くの造船所に並ぶフェリー群をつぶさに見ることができた。大小さまざまなカーフェリーがたくさん繋がれて、イースター明けの地中海の旅行シーズンに向けた準備に余念がない。古くから地中海航路のフェリーはその多くが11～3月末までのオフシーズンには造船所で係留され、4～10月の間の7ヶ月のオンシーズンで1年分を稼ぐというビジネススタイルを続けている。すなわち需要が夏だけに集中するために、船も船員も冬季に長期休暇をとるというシステムだ。もちろんオンシーズンに合わせたキャパシティの大型船での年間運航という手もあるが、複数の中小型船でそれぞれの季節の需要に合わせた隻数での運航の、どちらがより収益が得られるかは、それぞれの航路特性によるものと考えられるが、興味深いフェリーの運航の仕方である。造船所に係留されているフェリーのほとんどはAISが切られた状態だったが、中にAIS信号が発信されている船があり、AISの目的地の項目にはSea trialと明示されていた。いよいよ運航前の試運転に入るところなのであろう。



ジェノア港の入口にある造船所の棧橋に並ぶカーフェリー群。夏のハイシーズンに向けて整備が進んでいた。

船が港外に出たところでレストランに戻ると、ちょうどメイン料理がでてくるころだった。この日のメイン料理には、牛肉のシュニッツェルを頼んだ。イタリア系の船なので料理は美味しく口に合った。ワインもボトルでとって堪能した。まわりのテーブルはほとんどが日本人客で、今航海では400人近く乗船しているとのこと。すなわち定員の10%近くがフライ&クルーズでやってきた日本からのお客ということなので、クルーズが日本でも着実に浸透していることが実感させられた。日本語のメニューも用意されていたが、添乗員は日本人客の要望をウェイターに伝えるのに奔走していた。

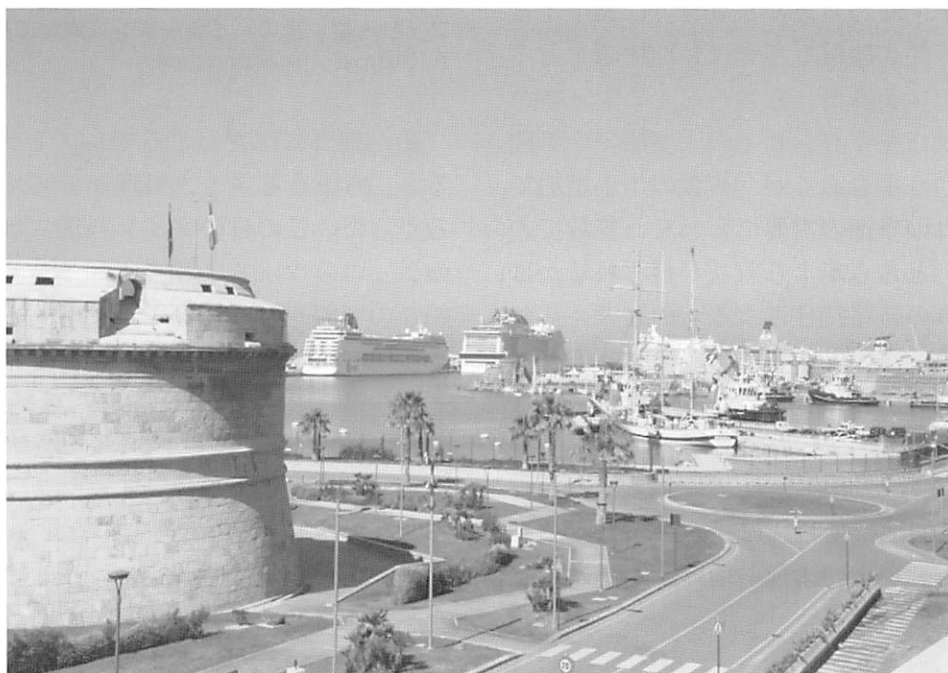
夕食後はメインシアターではマジックショーが行われ、それ以外に有料だが、シルクド・ソレイユというサーカスとショーを融合させた出し物もあった。このシルクド・ソレイユは食事付きとカクテル付きとに分かれていて、それぞれ入場時間が違っていた。



ファーストシーティングのメインレストラン。南欧の人々は遅い夕食を好むので、ファーストシーティングは空き席が目立つ

2日目の朝、イタリアのチビタベッキア港に入港した。ここはローマの外港として栄える港町で、最近クルーズのハブ港としても注目を集めている。遺跡でもある港の防波堤を延長して、長い防波堤の内側に大型クルーズ客船が直列で停泊できる岸壁が整備されており、それぞれのバースにテント型のターミナルが設置されている。各ターミナルと港の入口との間に無料循環シャトルバスが出ていて、乗客の足の便を図っている。この日のチビタベッキア港へのクルーズ客船の入港は3隻で、地中海に浮かぶサルジニア島とを結ぶ3隻の大型旅客フェリーとも出会うことができた。

ここからはローマ観光のオプションツアーに参加する乗客が多かったが、筆者らはチビタベッキアの小さな町を散策して、港が見渡せる丘の上のレストランで魚介類の昼食を楽しんだ。



客船やカーフェリーが並ぶチビタベッキア港

近くには、支倉常長の銅像があった。江戸時代の初期に、伊達政宗が欧州に送った使節団の長としてローマ法王にも謁見したという武将であり、東北の石巻には同使節団がアメリカ大陸まで渡った帆船「サン・ファン・パウティスタ」を復元展示している海事ミュージアムがある。



港が見渡せる丘の上のレストランで、昼食として食べたムール貝の料理

船は、夕刻に出港して、船は真っすぐに南下してシシリー島を目指した。シシリー島

は、映画ゴッド・ファーザーでのマフィアの故郷として描かれたイタリア半島の南に位置する島で、まだ訪問したことのない地だった。入港するのは同島の中心地であるパレルモの港であった。シシリー島からのクルーズ後半の様子は次回にご紹介したい。



チビタベッキア港を展望できる丘の上につつ支倉常長の像

会社案内カタログ、製品紹介パンフレット、社史など製作致します。



レイアウト、デザインなど、全てお任せ下さい。

ご相談は小誌まで

電話 078-331-3860